

午後Ⅱ試験

問 1（システム運用業務の集約に関する監査について）では、仮想化技術を活用したサーバ統合を主題にした論述が多く見られた。しかし、設問ア及び設問イは、サーバ統合の技術的な実現方法ではなく、システム運用業務の集約に関する概要や留意点を問う問題であったため、出題趣旨に合わない解答が目立った。設問ウは監査手続を問う問題であったが、監査で確認すべき項目だけが述べられている場合が多く、どのような手段、方法によって確認すべきかの具体的な手続が論述できている解答は少なかった。

問 2（要件定義の適切性に関するシステム監査について）は、身近なテーマであるので、設問イ及び設問ウについては、多くの受験者が一通りの論述はできていた。しかし、一般的かつ抽象的な論述にとどまっている解答が散見された。設問イでは、プロジェクトの失敗の原因となる要件定義の問題点について論述を求めているが、“要員の能力不足”などの表面的な原因にとどまり、なぜ適切な要員体制が確立されなかったのかといった根本問題まで言及している論述は少なかった。また、設問ウの要件定義の適切性を監査する手続については、“要件定義書に要件が網羅されているかを確認する”などの一般的には現実的でない監査手続の論述が目立った。

問 3（ソフトウェアパッケージを利用した基幹系システムの再構築の監査について）は、多くの組織で検討あるいは実施しているテーマとして出題したが、設問ア及び設問イでは、パッケージの利用を前提とした再構築についての監査という出題趣旨とは関係なく、一般的な再構築のメリットやリスクについての論述が散見された。また、設問ウでは、再構築の適切性を監査する具体的な監査手続を求めているが、六つの観点からの監査項目だけを論述して監査証拠については述べていない論述や、監査実施結果についての論述が目立ち、監査手続を理解できていないと思われる受験者が多かった。